

## 小笠原記念館（1/2）

～今井兼次設計—和風の意匠に現代建築の組み合わせ～

### ■小笠原記念館

唐津の郷土人をして親近感を寄せしめる家系のひとつに、旧藩主小笠原家がある。これは歴代藩主のうち、最後の52年間を小笠原氏が城主となって唐津藩の治政に当たったからであるが、小笠原家の嫡流である小笠原長行、その子長生が廃藩置県のものちも旧藩唐津との間に和やかな交渉を持続した結果にほかならない。

かようなわけで、唐津市民、東松浦各町村民は時世の大変革にさいして変ることなく、郷土人はこそって小笠原家の安泰を希うという状態である。その根ざすゆえんのは、小笠原長行が幕末の名老中として内政外交に才幹をふるったことが郷土人の誇りでもあったし、かつ最後の藩主長国の時代、藩主名代として前後3年間におよんだ藩の治政が当時の領民から非常な好感を抱かれたことや、東京にある育英塾久敬社の創始経営に努力したことなどがあげられる。

この父にしてこの子あり、小笠原長生氏は、日本海軍部内における博学の名文章家として知られた人物であるが、今上陛下の学習院時代、東宮御学問所時代にか、その側近にあつて教育の大任を果たした後は宮中顧問官として皇室に仕えたほどの立派な人格者であつた。長生氏が生前、終生の念願としていた同家の秘宝を唐津に保存してもらいたいとの申出でを受けて建設されたのが小笠原記念館である。

記念館の建設を機会に、近代日本の黎明期に郷土唐津で勉学、のち国中にその名声を博した工学博士辰野金吾、法学博士天野為之、工学博士長谷川芳之助、法学博士林毅陸、工学博士曾祢達蔵、大審院判事掛下重次郎の諸氏、また唐津藩英語学校で前記諸氏の薫陶に大いに力あつた総理大臣高橋是清、加うるに愛国婦人会の創始に奮闘した奥村五百子刀自の記念品を展観し、あるいは遺影を掲げて、これから一連の諸先覚にたいして郷土人が景仰の心を捧げようとの趣旨も同時に含まれていた。

～2/2へつづく～

分野 文化

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



近松寺 外観



小笠原記念館 外観

◎引用・参考文献（出典）

- ◆唐津観光協会HP
- ◆『唐津市史』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 小笠原記念館（2/2）

～今井兼次設計—和風の意匠に現代建築の組み合わせ～

～1/2からつづく～

建設の動機はこのような事情によるものであったが、随時に考古資料、書画、陶磁器などの文化財や美術品を展観して、地方文化向上のための施設となっている。敷地300余坪は近松寺境内にある小笠原家の廟所を改装し、設計は早稲田大学の芳志にもとづく寄贈で、当代建築学界の権威と謳われる今井兼次教授が担当、日本建築様式を摂取した耐火耐震の鉄筋コンクリート造りの近代建築である。

すでに、日展郷土作家展、奥村五百子回顧展、県展新人秀作展などの展観を催おし、郷土文化の昂揚に寄与している。

記念館建設にさいしては、昭和28年10月3日、発起人会で昭和自動車株式会社社長金子道雄氏が推されて建設準備会長に就任、久敬社理事常安弘通氏が準備委員長になり、東京では相談役、久敬社理事原清氏がもっぱら建設資金の募集に努力したが、その後5か年間には予定の資金が集らず、結局金子会長の責任において昭和30年1月起工、同31年6月に完成した。かくして、小笠原家の秘宝整理のうえ32年4月1日開館のはこびとなり、一般に公開することになった。（唐津市史より抜粋）

住 所：唐津市西寺町 近松寺  
入場料：無料  
営業時間：9：00～17：00  
休 み：月曜・12/29～1/3  
バス停：坊主町

◎エピソード・伝承・うんちく など

■設計：今井兼次（いまい けんじ）  
■竣工：1956（昭和31）年

今井 兼次（1895年1月11日 - 1987年5月20日）は日本の建築家。早稲田大学理工学部建築学科卒業。母校の教授を長く勤め、建築作品とともに教育者として研究室から優れた建築家、研究者を多数輩出した。

青山尋常小学校、日本中学校を経て早稲田大学理工学部建築学科へ入学。1919年、大学卒業と同時に助手に任命され、翌年、助教授に就任。1926-1927年に東京地下鉄の駅舎の設計にあたり、ヨーロッパの地下鉄駅を研究するため外遊。ソヴィエトから北欧、ヨーロッパ諸国を回り、パウハウスなどモダニズムの作品のほか、アントニ・ガウディやエストベリ、シュタイナーらの（モダニズムとは異なる）作品にふれた。帰国後、これらの作品を日本に紹介した功績も大きく、ガウディの紹介者として草分けに当たる。1928年の帝国美術学院（現 武蔵野美術大学）設立、及び、1935年の多摩美術学校（現 多摩美術大学）設立にも関わり、多摩美術学校では講師を務めた。1937年、早稲田大学教授に就任。1965年早稲田大学名誉教授。1965年関東学院大学教授。1979年日本芸術院会員。

作品数は多くないが、合理的・機能的なモダニズム建築からは距離を置き、建築に職人の手の技を残す作品を造った。職人に混じって自らタイルを張った、などのエピソードもある。（今井兼次 - Wikipediaより）

■今井兼次の九州における代表作

日本二十六聖人記念聖堂（長崎市、1962）、大隈記念館（佐賀市、1966）、小笠原記念館（唐津市、1956）。

分野 文化

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



小笠原記念館 館内

（唐津新聞社より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆唐津観光協会HP
- ◆『唐津市史』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)